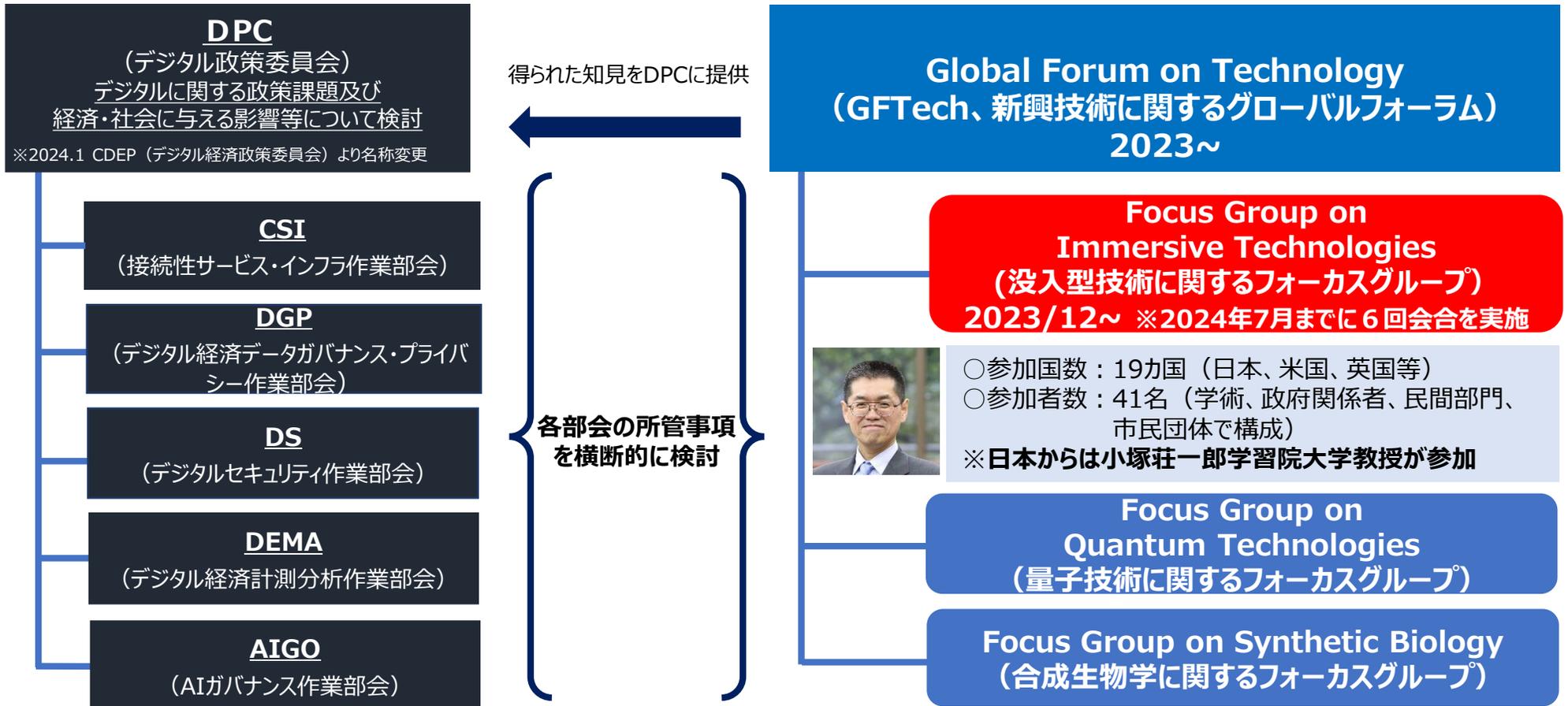


「メタバースの原則（第1.0版）」を踏まえた 国際的な共通認識の醸成に向けた取組状況

2024年12月20日

情報流通行政局参事官

- OECDでは、2022年12月、マルチステークホルダーによる、責任ある価値観に基づいた権利指向の技術等に関する議論の場として、新興技術に関するグローバルフォーラム（Global Forum on Technology, GFTech）が発足。
- 2023年6月、GFTech第1回会合が開催され、①没入型技術（Immersive Technologies）、②合成生物学（Synthetic Biology）、③量子技術（Quantum Technologies）の3分野について、フォーカスグループ（FG)を設置し、専門家による議論を進めることとなった。
- 同年12月より没入型技術FGにおいて専門家による議論を開始。2024年7月までに計6回開催（全てオンライン）。



■ 没入型技術・量子技術のFG会合及び関連イベントが対面にて開催された。

- ・日程：2024年9月18日（水）（FG）、19日（木）・20日（金）（関連イベント） ・会場：OECD本部（フランス/パリ）
- ・参加者：学習院大学法学部 小塚 莊一郎 教授（当研究会座長）、総務省 情報流通行政局 参事官付参事官補佐 奥村 他

1. 没入型技術FG

- 没入型技術FGでは、小塚座長を含む10名の専門家が参加。
- 没入型技術FG報告書案（後述）に関する議論（セッション1）及び没入型技術が社会などにもたらす効果や影響に関する議論（セッション2）が行われた。
セッション2では、小塚座長が事務局と共同議長を務め、議論の取りまとめにあたった。
- OECD事務局からは、2019年にOECDにおいて採択されたAI原則の採択に至るまでのプロセスについて説明がなされた。事務局の説明に続けて、**小塚座長から総務省「メタバースの原則（1.0版）（案）」を紹介し、原則に関する議論の必要性について提言**された。



FGに参加された専門家の方々

2. 関連イベント（The human future: What's on the horizon?）

- GFTech 3分野（没入型技術、量子技術、合成生物学）、その他新興技術に関連するトピックについて、産官学民の外部有識者によるパネルディスカッションなどが行われ、54カ国から240名が参加。
- KDDIヨーロッパ社長の高室氏もイベントに登壇し、データセンターのご知見を元に、デジタルにおける持続可能性について発言された。
- 3日間の議論を総括するラウンドテーブルセッションでは、小塚座長が没入型技術FGの専門家代表として登壇され、同FGの議論を紹介された。



ラウンドテーブルセッションでの
小塚座長

3. （参考）OECD・デジタル政策委員会（DPC）等

- 11月20日（水）のDPCにおいて、上記会合・イベントの開催報告等を含むGFTechの取組について事務局より報告があり、日本からは引き続き取組を支援する旨発言。
- 今後の議論の進め方も含め、引き続きOECDの議論に貢献する予定。

- 2024年11月、GFTech没入型技術FGの報告書案がDPCに提出された。報告書案の構成は以下のとおり。
- また、総務省の働きかけにより、「メタバースの原則（1.0版）」が、日本の取組として同報告書案内で紹介されている。

第1章 没入型技術及び議論範囲の把握

- ・ 没入型技術に関連する用語に関する整理等

第2章 没入型技術の発展及び政策動向の背景並びに展望

- ・ 没入型技術のこれまでの発展動向、各国政府等の政策動向等

第3章 追求すべき没入型技術の社会的・経済的恩恵

- ・ ユースケースの紹介等

第4章 政策的考慮

- ・ 想定される没入型技術のリスクや課題への対応に向けた政策上の論点整理等
- ・ 仮想世界のガバナンスを発展させるに当たって参考取組として、日本の「メタバースの原則（1.0版）」を紹介

第5章 没入型技術に関する政策等の展望

FG専門家は以下の点について言及。

- ・ プライバシー、信頼性、透明性等の価値に基づく予見的ガバナンスの重要性
- ・ **OECDのAI勧告に類似した没入型技術に関する世界標準を確立するための原則**を策定するために、DPC及び作業部会の専門知識を活用（後述）

別紙A 没入型技術のこれまでの歩みに関する年表

別紙B 日本の「メタバースの原則（1.0版）」の紹介

別紙C 没入型技術に関するFGの活動内容の紹介

- 報告書の目的は、①政府が没入型技術のメリットとリスクを理解する基盤と議論のスコープの特定、②人間中心で民主的な価値観に基づき、技術の開発と利用を支援する方法に関する議論の場を特定すること、などと記述されている。
- あり得る今後の活動には、以下が含まれるとされている。

1. DPCとその作業部会(データ保護、プライバシーとフロー、コネクティビティ、人工知能、セキュリティと安全性など)の専門知識を活用

- ① 政策立案者や利害関係者に欠如している、**没入型技術に関する共通語の設定を支援する分類法を提案するべきではないか。**

・ この分類法の最終的な目標は、没入型技術をめぐる一貫した価値観に基づいた政策立案の下支えとなることである。

- ② **OECDのAI勧告に類似した没入型技術に関する世界標準を確立するための原則を策定するべきではないか。**

・ DPCは、**OECDのAI原則の策定に用いられたアプローチに沿った作業を実施し、グローバルに協調してイノベーションを促進すること、共通の価値観に沿って没入型技術を開発・展開すること、安全性、セキュリティ、デジタルデバイド、アクセシビリティ、インクルージョンとアカウントビリティなどをめぐる主要なリスクに配慮し続けることを各国に促すことができる。**

2. 以下の点の分析作業について検討

- a. イノベーションを促進する必要性ともバランスがとれた没入型技術に特化したデータとプライバシー保護。
- b. AIと没入型技術の融合がもたらす倫理的意味合い。
- c. 没入型技術（デジタル・ツインを含む）が、人間とインターフェースする他の技術（IoT、ニューロテクノロジー、ロボティクスなど）と連携することの意味合い。
- d. 没入型技術を採用するための持続可能な開発経路の評価と指針。



欧州委員会「Web4.0と仮想世界のマルチステークホルダー会合について」

会議情報

- **日時** : 2025年3月31日～ 同年4月1日
- **主催** : 欧州委員会及び次期議長国ポーランド共催
- **方式・場所** : ハイブリッド (ブリュッセル、Charlemagne building /オンライン)
- **目的** : **Web4.0及び仮想世界のグローバルガバナンスの原則を定義すること**



- 世界中から集まった政策立案者、技術者、学者、コミュニティリーダーが、仮想世界におけるガバナンスモデルを共同で提案する。
- 議論は、倫理的かつ価値主導のWeb4.0への移行を実現するための政策的解決策や、仮想空間(インターネット標準を含む)における技術管理と標準化の課題に焦点を当てる予定となっている。また、インターネットガバナンスにおけるマルチステークホルダーモデルや、これらのガバナンスフレームワークの整合性も重要なテーマとして議論される。

期待される成果と背景情報

- 期待される成果として、会合で得られたコンセンサスに基づき、**Web4.0と仮想空間の将来的なガバナンスに向けた政策的及び技術的な提言を採択**することが挙げられている。この提言は、世界情報社会サミット (WSIS) の20年後の振り返り (WSIS + 20) を見据えた議論につながることを目指すものとされている。
- 本会合は欧州委員会が2023年7月に発表した「**Web 4.0と仮想世界をリードするEU戦略**」のアクション9※を実現するもの。

※ アクション9は、欧州委員会に対し、「オープンで相互運用可能な仮想空間を設計するために、既存のマルチステークホルダー・インターネットガバナンス機関に参与すること(2023年第4四半期から)」、「既存のインターネット・ガバナンス機関の範囲を超えた仮想空間とWeb4.0の特定の側面に取り組むために、技術的なマルチステークホルダー・フォーラムの創設を支援すること(2024年第1四半期から)」を求めている。